

※図面及び特記に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年度版）」による。

構造設計特記仕様

※修正箇所には下線を引くこと。
適用は■印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 東谷山中学校バリアフリー化本体工事
建築場所 鹿児島県鹿児島市
- (2) 工事種別 ☐新築 ☒増築 ☐増改築 ☐改築
- (3) 構造設計一級建築士の関与
☐法第20条第一号（高さ 60m 超）
☐法第20条第二号（ ☐RC造高さ 20m 超 ☐S造 4階建以上 ☐木造高さ 13m 超 ☐その他）
- 注）(3)構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書を参照して確認すること。
- (4) 構造種別
☐木造 (W) ☐補強コンクリートブロック造 (CB) ☒鉄骨造 (S)
☐鉄筋コンクリート造 (RC) ☐壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
☐鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) ☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
- (5) 階 数 1 棟 地下 階 地上 4 階 塔屋 階
- (6) 主要用途 E V
- (7) 屋上付属物
☐高架水槽 kN ☐キューピクル kN ☐広告塔 ☐煙 突
- (8) 特別な荷重
■エレベータ 11 人乗り（ロープ式）
☐倉庫積載床用 N/m² ☐受水槽 kN
- (9) 付帯工事
☐門扉 ☐擁壁 ☐ ☐ ☐ ☐
- (10) 増築計画 ☐有（ ） ☒無
- (11) 構造計算ルート X 方向ルート 3 Y 方向ルート 3

2. 使用建築材料表・仕様構造材料一覧表

適用箇所	種 類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	スラブ cm	備 考
捨コンクリート	■普通	18	15	
土間コンクリート	■普通	18	18	
基礎・基礎梁・台柱	■普通、 <input type="checkbox"/> 軽量	24	18	
	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量			
			18	

細骨材の種類	■砂	<input type="checkbox"/> 山砂	<input type="checkbox"/> 人工	<input type="checkbox"/>
粗骨材の種類	■砂利	■砕石	<input type="checkbox"/> 人工	<input type="checkbox"/>
水の区分	<input type="checkbox"/> 水道水	<input type="checkbox"/> 地下水	■JIS A 5308の付属書Cによる	
混和材料の種類 (JIS)	■AE減水剤	<input type="checkbox"/> 高性能AE減水剤	<input type="checkbox"/>	
呼び強度を保証する材齢、養生	■材齢（ <input checked="" type="checkbox"/> 28日 <input type="checkbox"/> 56日 <input type="checkbox"/> ） ■養生（ <input checked="" type="checkbox"/> 現場対かん <input type="checkbox"/> 現場水中 <input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> ）			

■単位水量は185kg/m以下、単位セメント量は270kg/m以上とする。

- (2) コンクリートブロック (CB)
☐A種 ☐B種 ☐C種 厚100 120 150 190 使用箇所(☐ ☐)

	種 類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋 (JIS G 3112)	■SD295A <input type="checkbox"/> SD295B	D10～D16	全て	■重ね継手 ■ガス圧接継手
	■SD345 <input type="checkbox"/> SD390	D19～	基礎・地中梁・台柱	<input type="checkbox"/> 溶接継手 <input type="checkbox"/> 機械式継手
	<input type="checkbox"/>			()
	<input type="checkbox"/> 材種 <input type="checkbox"/>			各継手の使用詳細については
高強度せん断補強筋	<input type="checkbox"/> SD390			本仕様5.(2)鉄筋の項の鉄筋継手等の
丸 鋼	<input type="checkbox"/> SR235			■にて表示すること。
溶接金鋼 (JIS G 3551) <input type="checkbox"/>				

種 類	使用箇所	現場溶接	備 考
■SS400 <input type="checkbox"/> SM400 <input type="checkbox"/> SM400A, B, C	大梁、小梁	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STKR490 <input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
■BQR295 <input type="checkbox"/> BQP235 <input type="checkbox"/>	柱	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SM490B, C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
■SSC400	母屋	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

- (5) ボルト ☐使用箇所の詳細については別途図示とする。

- 高力ボルト
□F10T ☒S10T ☐F8T
(JIS B 1186) 認定番号() 認定番号() (■M16 ■M20 □M22 □M24)
- ボルト (JIS B 1180) M12 M ☐4.8 (4T) ☐
- アンカーボルト
■ABR400 M22 定着長 L=500 mm ナット(■シングル ■ダブル)
- 頭付スタッドボルト
φ=16 L= 80 mm 使用箇所(□柱 ■大梁 ■小梁)

材 種	型式 厚 その他	仕様箇所	仕様・構造
ALC (JIS A 5416)	厚120	■壁 □床版	<input type="checkbox"/> スライド □ボルト止め <input type="checkbox"/> ロッキング <input type="checkbox"/>
折 板	H= 厚t=	□屋根 □庇	<input type="checkbox"/>
特殊デッキプレート (JIS G 3352)	型式 厚	□床版 □	<input type="checkbox"/>
デッキプレート (JIS G 3352)	型式 厚	□床版 □屋根	<input type="checkbox"/>
キーストンプレート (JIS G 3352)	型式 厚	□床版 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3. 地 盤

■有（■敷地内 □近隣）				□無（調査計画 □有			
調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り
ボーリング調査	<input checked="" type="checkbox"/>		静的貫入試験			標準貫入試験	
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査	
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定	
スエーデンサウンディング			現場透水試験			PS検層	

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

標準貫入試験											
深度	土質	No.1 N 値	10	15	20	25	30	35	40	45	50
1	軟弱シラス	10									
2		16									
3		21									
4		21									
5		22									
6	中硬質シラス	26									
7		28									
8		24									
9		23									
10		25									
11		25									
12		24									
13		25									
14		27									
15		26									
16											
17											
18											
19											
20											

4. 地業工事

- (1) 直接基礎
■ベタ基礎 ■布基礎 ☐独立基礎 試験掘 ☐有 ☐無

基礎底 G L - 2.0 m
長期許容支持力度 200 kN/m²

杭 種	材 料	施 工 法	備 考
□RC □PRC □PHC □H鋼 □鋼管 □摩擦杭 <input type="checkbox"/>	PRC (□Ⅱ種 □Ⅳ種) PHC (□A種 □B種 □C種) 鋼材 □SS400 □SKK400 □JIS	□打ち込み □埋込み（セメントミルク工法） <input type="checkbox"/>	
□場所打ち コンクリート杭	コンクリート F _c = N/mm ² スランプ セメント量 kg/m ³ 鉄 筋 主筋 SD HOOP SD	□オールケーシング □掘削杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル □ミニアース <input type="checkbox"/> 手掘 <input type="checkbox"/> 手掘 <input type="checkbox"/> 機械掘	掘削杭 日本建築センター認定 第 年 月 日

杭仕様 ☐施工計画書承認 ☐杭施工結果報告書
試験杭 (☐有 ☐無) (☐打ち込み ☐載荷 ☐孔壁測定) 本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭先深さ (m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

本構造特記仕様はコンクリートの設計基準強度 (F_c) が36N/mm以下に適用し、
鉄筋の材種はSD390以下に適用する。

- (1) コンクリート
■コンクリートはJIS A 5308に適合JIS認定工場の製品とし施工に関しては標準図に記載されている事項を除きJASS5 (2009) による。
□耐久設計基準強度 F_d □短期 □標準 □長期 □超長期
■セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
■調査計画は、工事開始前に工事管理者の承認を得ること。
■寒中、暑中、その他の特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事管理者の承認を得ること。
■フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
■構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体 (JASS5T-603) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150mをこえる場合は150mごとまたは、その端ごとと一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
■ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
■コンクリート打ち込み中及び打ち込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下らないようにする。
■乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び妨げられないように養生を行う。

- (2) 鉄筋
■鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。施工は標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JISS 5(2009) による。
□高強度せん断補助筋JIS G3137に規定されるD種1号適合品とする。
■鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、J鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
■鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径
	(1) 引張力最少部位	(2) (1) 以外の部位			
		A級	B級	SA級	
■重ね継手	■40d □35d □()d				□D (22) 以下
□圧接継手	□告示1463号第2項各号	□			□D () 以下
□溶接継手	□告示1463号第3項各号	□	□		□D () 以下
□機械式継手	□告示1463号第4項各号	□	□	□	□D () 以下

注) (1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし下記に基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準 (建築物の構造関係技術基準解説書 2007)」によって検討した部材の条件・仕様によること。

- D19未満は全て重ね継手とする。
□継手部分の施工要領は (社) 日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」(ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事) による。
継手部の検査方法： ・外観検査 ☐有 ☐無 ・引張試験 ☐有 ☐無
・超音波探傷試験 ☐有 ☐無

- ガス圧接部分の検査を超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の試験は5本以上とする。
(1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で200箇所程度とする)
■柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は、 ■H型 (ハ型) □W型 (溶接型) □X型 (X'型) 型とする。
□コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験・検査機関名 公約第3者機関 (都知事登録第 号)
代行業者名
代行業者名とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

- (3) 型枠
■材料 合板厚 12mmを標準とする。 ■施工 JASS 5(2009)による。
■型枠存置期間

種別 部 位	せ き 板				支 柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下	はり下	スラブ下	はり下	スラブ下	はり下
セメント の 種類	早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント
平均 値	A種	A種	A種	A種	A種	A種	A種	A種
コン クリ ートの 圧縮 強度	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
5.0N/㎠ c㎡				設計基準強度の50%				
				85%				100%

注) 1 片持ばり、底、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注) 2 大はりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他ののはり下の場合も原則として行わない。
注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。
注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注) 5 支柱の盛りかえは、かぶりが高くなってから、スラブを行う。一層に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注) 6 直上層に著しく大きな積載荷重がある場合においては、支柱 (大梁の支柱を除く) の盛りかえを行わないこと。
注) 7 支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
■日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■(社) 日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
■鉄骨製作管理技術者登録機構 [突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強について]
- (2) 工事監理者の承認を必要とするもの
■製作工場 ■製作要領書 ■工作図 ■施工計画書
■認定または登録工場 (大臣認定 S H M R J グレード 都登録 T1 T2 T3 ランク)
■材料規格証明書※、または試験成績書
■鋼材 ■高力ボルト ■特殊ボルト ■頭付スタッド
※(社) 日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
■社内検査表 ☐ ☐
- (3) 工事監理者が行う検査項目
(■印以外の項目の検査結果については、工事監理者の報告すること)
■現寸検査 ■組立・開発検査 ■製品検査 ■建方検査 ☐
- (4) 接合部の溶接は下記によること
■平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
■鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
■日本建築学会「溶接工作基準、同解説1、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
■日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

- (5) 接合部の検査
■溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数				備 考
		社 内	第三者	工事監理者		
■完全溶込み溶接部 (突合せ溶接)	外観検査 (※)	100 % 値	30 % 値	30 % 値		※平成12年建設省告示第1464号第二号による
□	超音波探傷試験	100 % 値	30 % 値	30 % 値		
	内質 <input type="checkbox"/> 硬さ試験	% 値	% 値	% 値		(目視及び計測)
	検査 <input type="checkbox"/> 示温塗料塗布	% 値	% 値	% 値		(注) 東京都の要綱に
□	マクロ試験・その他	% 値	% 値	% 値		(注) 東京都の要綱に
	外観検査 (※)	% 値	% 値	% 値		
第三者検査機関名		CIV認定機関 (都知事登録 第 号)				

注1) 現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波検査を100%行うこと。
注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること。

- 高力ボルトの検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)
軸力導入試験 ■要 ☐否 高力ボルトすべり係数試験 ■要 ☐否
■一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、再回り等の異常が無いことを確認する。
■トロシア形高力ボルトは二次締め後ピンテールが破断している事を確認する。

- (6) 防錆塗装
■防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、 □JIS K 5621 □JIS K 5625 ☐ ☐
を使用して、4つ星2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
■現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工事塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

- (7) 耐火被覆の材料
☐

7. 令第129条の2の3

- 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
■建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
■煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
■設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
■設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
■エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
■特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
■床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
■給湯設備は風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して上支障のない構造として、平成12年告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
※図面及び特記に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年）」による。

一級建築士 第329649号 竹田 和彦
構造設計一級建築士 第9035号

株式会社 OKI Design
一級建築士 第 322987 号
沖園 周一郎 印

東谷山中学校校舎1号棟エレベーター設置その他本体工事
構造設計特記仕様 A1-1/ -
A3-1/ - S-O1
鹿児島市建設局建築部建築課

鉄骨構造標準図(1)

構造詳細図該当項目

1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による
- (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
但し、ベースプレートの厚さは除く
- (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、制度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
- (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
- (c) 高強力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本締め使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、 $50\mu\text{mRz}$ 以上である場合は、赤さびは発生しないまでよい。
- (c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。
- (4) 溶接接合
- (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶接金属の性能を満足すること。
- (b) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする。
- (c) 溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機 300A-500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアークラッピング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) サブマージアーク溶接機1式 (ヘ) 溶接棒乾燥器
- (d) 溶接方法
アーク手溶接(MC) ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
セルフ(ノガス)シールドアーク半自動溶接(NGC) アークエアークラッピング(AAG)
- (e) 溶接姿勢
- 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O
- (f) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
- (イ) 仮付位置
組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- 仮付不良 良 仮付不良 良
- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- 仮付溶接 裏はつり側にする。 開先面
- (g) 溶接施工
- (イ) エンドタブ
- I 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
- II エンドタブの材質は、母材と同質とする
- III エンドタブの長さは、MC: 35mm以上、NGC・GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
- IV プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る
- (ロ) 裏あて金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。
- (ハ) スカラップ半径は30~35mmと10mmのダブルアルとする
但し梁成が $D=150\text{mm}$ 未満の場合の スカラップは $r=20\text{mm}$ とする (ニ) ノンスカラップ工法
- (ホ) 裏はつり
標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を履行し、部材に確認マークをつける
- (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行なう
- (5) 塗装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

2. 溶接規準図

(注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フィース S:脚長

(単位mm)

(1) 隅肉溶接

(2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所に注意)

(3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)

(4) フレアー溶接

(5) K形の場合

(6) フレアー溶接

(7) フレアー溶接

(8) フレアー溶接

(9) フレアー溶接

(10) フレアー溶接

(11) フレアー溶接

(12) フレアー溶接

(13) フレアー溶接

(14) フレアー溶接

(15) フレアー溶接

(16) フレアー溶接

(17) フレアー溶接

(18) フレアー溶接

(19) フレアー溶接

(20) フレアー溶接

(21) フレアー溶接

(22) フレアー溶接

(23) フレアー溶接

(24) フレアー溶接

(25) フレアー溶接

(26) フレアー溶接

(27) フレアー溶接

(28) フレアー溶接

(29) フレアー溶接

(30) フレアー溶接

(31) フレアー溶接

(32) フレアー溶接

(33) フレアー溶接

(34) フレアー溶接

(35) フレアー溶接

(36) フレアー溶接

(37) フレアー溶接

(38) フレアー溶接

(39) フレアー溶接

(40) フレアー溶接

(41) フレアー溶接

(42) フレアー溶接

(43) フレアー溶接

(44) フレアー溶接

(45) フレアー溶接

(46) フレアー溶接

(47) フレアー溶接

(48) フレアー溶接

(49) フレアー溶接

(50) フレアー溶接

(51) フレアー溶接

(52) フレアー溶接

(53) フレアー溶接

(54) フレアー溶接

(55) フレアー溶接

(56) フレアー溶接

(57) フレアー溶接

(58) フレアー溶接

(59) フレアー溶接

(60) フレアー溶接

(61) フレアー溶接

(62) フレアー溶接

(63) フレアー溶接

(64) フレアー溶接

(65) フレアー溶接

(66) フレアー溶接

(67) フレアー溶接

(68) フレアー溶接

(69) フレアー溶接

(70) フレアー溶接

(71) フレアー溶接

(72) フレアー溶接

(73) フレアー溶接

(74) フレアー溶接

(75) フレアー溶接

(76) フレアー溶接

(77) フレアー溶接

(78) フレアー溶接

(79) フレアー溶接

(80) フレアー溶接

(81) フレアー溶接

(82) フレアー溶接

(83) フレアー溶接

(84) フレアー溶接

(85) フレアー溶接

(86) フレアー溶接

(87) フレアー溶接

(88) フレアー溶接

(89) フレアー溶接

(90) フレアー溶接

(91) フレアー溶接

(92) フレアー溶接

(93) フレアー溶接

(94) フレアー溶接

(95) フレアー溶接

(96) フレアー溶接

(97) フレアー溶接

(98) フレアー溶接

(99) フレアー溶接

(100) フレアー溶接

(101) フレアー溶接

(102) フレアー溶接

(103) フレアー溶接

(104) フレアー溶接

(105) フレアー溶接

(106) フレアー溶接

(107) フレアー溶接

(108) フレアー溶接

(109) フレアー溶接

(110) フレアー溶接

(111) フレアー溶接

(112) フレアー溶接

(113) フレアー溶接

(114) フレアー溶接

(115) フレアー溶接

(116) フレアー溶接

(117) フレアー溶接

(118) フレアー溶接

(119) フレアー溶接

(120) フレアー溶接

(121) フレアー溶接

(122) フレアー溶接

(123) フレアー溶接

(124) フレアー溶接

(125) フレアー溶接

(126) フレアー溶接

(127) フレアー溶接

(128) フレアー溶接

(129) フレアー溶接

(130) フレアー溶接

(131) フレアー溶接

(132) フレアー溶接

(133) フレアー溶接

(134) フレアー溶接

(135) フレアー溶接

(136) フレアー溶接

(137) フレアー溶接

(138) フレアー溶接

(139) フレアー溶接

(140) フレアー溶接

(141) フレアー溶接

(142) フレアー溶接

(143) フレアー溶接

(144) フレアー溶接

(145) フレアー溶接

(146) フレアー溶接

(147) フレアー溶接

(148) フレアー溶接

(149) フレアー溶接

(150) フレアー溶接

(151) フレアー溶接

(152) フレアー溶接

(153) フレアー溶接

(154) フレアー溶接

(155) フレアー溶接

(156) フレアー溶接

(157) フレアー溶接

(158) フレアー溶接

(159) フレアー溶接

(160) フレアー溶接

(161) フレアー溶接

(162) フレアー溶接

(163) フレアー溶接

(164) フレアー溶接

(165) フレアー溶接

(166) フレアー溶接

(167) フレアー溶接

(168) フレアー溶接

(169) フレアー溶接

(170) フレアー溶接

(171) フレアー溶接

(172) フレアー溶接

(173) フレアー溶接

(174) フレアー溶接

(175) フレアー溶接

(176) フレアー溶接

(177) フレアー溶接

(178) フレアー溶接

(179) フレアー溶接

(180) フレアー溶接

(181) フレアー溶接

(182) フレアー溶接

(183) フレアー溶接

(184) フレアー溶接

(185) フレアー溶接

(186) フレアー溶接

(187) フレアー溶接

(188) フレアー溶接

(189) フレアー溶接

(190) フレアー溶接

(191) フレアー溶接

(192) フレアー溶接

(193) フレアー溶接

(194) フレアー溶接

(195) フレアー溶接

(196) フレアー溶接

(197) フレアー溶接

(198) フレアー溶接

(199) フレアー溶接

(200) フレアー溶接

(201) フレアー溶接

(202) フレアー溶接

(203) フレアー溶接

(204) フレアー溶接

(205) フレアー溶接

(206) フレアー溶接

(207) フレアー溶接

(208) フレアー溶接

(209) フレアー溶接

(210) フレアー溶接

(211) フレアー溶接

(212) フレアー溶接

(213) フレアー溶接

(214) フレアー溶接

(215) フレアー溶接

(216) フレアー溶接

(217) フレアー溶接

(218) フレアー溶接

(219) フレアー溶接

(220) フレアー溶接

(221) フレアー溶接

(222) フレアー溶接

(223) フレアー溶接

(224) フレアー溶接

(225) フレアー溶接

(226) フレアー溶接

(227) フレアー溶接

(228) フレアー溶接

(229) フレアー溶接

(230) フレアー溶接

(231) フレアー溶接

(232) フレアー溶接

(233) フレアー溶接

(234) フレアー溶接

(235) フレアー溶接

(236) フレアー溶接

(237) フレアー溶接

(238) フレアー溶接

(239) フレアー溶接

(240) フレアー溶接

(241) フレアー溶接

(242) フレアー溶接

(243) フレアー溶接

(244) フレアー溶接

(245) フレアー溶接

(246) フレアー溶接

(247) フレアー溶接

(248) フレアー溶接

(249) フレアー溶接

(250) フレアー溶接

(251) フレアー溶接

(252) フレアー溶接

(253) フレアー溶接

(254) フレアー溶接

(255) フレアー溶接

(256) フレアー溶接

(257) フレアー溶接

(258) フレアー溶接

(259) フレアー溶接

(260) フレアー溶接

(261) フレアー溶接

(262) フレアー溶接

(263) フレアー溶接

(264) フレアー溶接

(265) フレアー溶接

(266) フレアー溶接

(267) フレアー溶接

(268) フレアー溶接

(269) フレアー溶接

(270) フレアー溶接

(271) フレアー溶接

(272) フレアー溶接

(273) フレアー溶接

(274) フレアー溶接

(275) フレアー溶接

(276) フレアー溶接

(277) フレアー溶接

(278) フレアー溶接

(279) フレアー溶接

(280) フレアー溶接

(281) フレアー溶接

(282) フレアー溶接

(283) フレアー溶接

(284) フレアー溶接

(285) フレアー溶接

(286) フレアー溶接

(287) フレアー溶接

(288) フレアー溶接

(289) フレアー溶接

(290) フレアー溶接

(291) フレアー溶接

(292) フレアー溶接

(293) フレアー溶接

(294) フレアー溶接

(295) フレアー溶接

(296) フレアー溶接

(297) フレアー溶接

(298) フレアー溶接

(299) フレアー溶接

(300) フレアー溶接

(301) フレアー溶接

(302) フレアー溶接

(303) フレアー溶接

(304) フレアー溶接

(305) フレアー溶接

(306) フレアー溶接

(307) フレアー溶接

(308) フレアー溶接

(309) フレアー溶接

(310) フレアー溶接

(311) フレアー溶接

(312) フレアー溶接

(313) フレアー溶接

(314) フレアー溶接

(315) フレアー溶接

(316) フレアー溶接

(317) フレアー溶接

(318) フレアー溶接

(319) フレアー溶接

(320) フレアー溶接

(321) フレアー溶接

(322) フレアー溶接

(323) フレアー溶接

(324) フレアー溶接

(325) フレアー溶接

(326) フレアー溶接

(327) フレアー溶接

(328) フレアー溶接

(329) フレアー溶接

(330) フレアー溶接

(331) フレアー溶接

(332) フレアー溶接

(333) フレアー溶接

(334) フレアー溶接

(335) フレアー溶接

(336) フレアー溶接

(337) フレアー溶接

(338) フレアー溶接

(339) フレアー溶接

(340) フレアー溶接

(341) フレアー溶接

(342) フレアー溶接

(343) フレアー溶接

(344) フレアー溶接

(345) フレアー溶接

(346) フレアー溶接

(347) フレアー溶接

(348) フレアー溶接

(349) フレアー溶接

(350) フレアー溶接

(351) フレアー溶接

(352) フレアー溶接

(353) フレアー溶接

(354) フレアー溶接

(355) フレアー溶接

(356) フレアー溶接

(357) フレアー溶接

(358) フレアー溶接

(359) フレアー溶接

(360) フレアー溶接

(361) フレアー溶接

(362) フレアー溶接

(363) フレアー溶接

(364) フレアー溶接

(365) フレアー溶接

(366) フレアー溶接

(367) フレアー溶接

(368) フレアー溶接

(369) フレアー溶接

(370) フレアー溶接

(371) フレアー溶接

(372) フレアー溶接

(373) フレアー溶接

(374) フレアー溶接

(375) フレアー溶接

(376) フレアー溶接

(377) フレアー溶接

(378) フレアー溶接

(379) フレアー溶接

(380) フレアー溶接

(381) フレアー溶接

(382) フレアー溶接

(383) フレアー溶接

(384) フレアー溶接

(385) フレアー溶接

(386) フレアー溶接

(387) フレアー溶接

(388) フレアー溶接

(389) フレアー溶接

(390) フレアー溶接

(391) フレアー溶接

(392) フレアー溶接

(393) フレアー溶接

(394) フレアー溶接

(395) フレアー溶接

(396) フレアー溶接

(397) フレアー溶接

(398) フレアー溶接

(399) フレアー溶接

(400) フレアー溶接

(401) フレアー溶接

(402) フレアー溶接

(403) フレアー溶接

(404) フレアー溶接

(405) フレアー溶接

(406) フレアー溶接

(407) フレアー溶接

(408) フレアー溶接

(409) フレアー溶接

(410) フレアー溶接

(411) フレアー溶接

(412) フレアー溶接

(413) フレアー溶接

(414) フレアー溶接

(415) フレアー溶接

(416) フレアー溶接

(417) フレアー溶接

(418) フレアー溶接

(419) フレアー溶接

(420) フレアー溶接

(421) フレアー溶接

(422) フレアー溶接

(423) フレアー溶接

(424) フレアー溶接

(425) フレアー溶接

(426) フレアー溶接

(427) フレアー溶接

(428) フレアー溶接

(429) フレアー溶接

(430) フレアー溶接

(431) フレアー溶接

(432) フレアー溶接

(433) フレアー溶接

(434) フレアー溶接

(435) フレアー溶接

(436) フレアー溶接

(437) フレアー溶接

(438) フレアー溶接

(439) フレアー溶接

(440) フレアー溶接

(441) フレアー溶接

(442) フレアー溶接

(443) フレアー溶接

(444) フレアー溶接

(445) フレアー溶接

(446) フレアー溶接

(447) フレアー溶接

(448) フレアー溶接

(449) フレアー溶接

(450) フレアー溶接

(451) フレアー溶接

(452) フレアー溶接

(453) フレアー溶接

(454) フレアー溶接

(455) フレアー溶接

(456) フレアー溶接

(457) フレアー溶接

(458) フレアー溶接

(459) フレアー溶接

(460) フレアー溶接

(461) フレアー溶接

(462) フレアー溶接

(463) フレアー溶接

(464) フレアー溶接

(465) フレアー溶接

(466) フレアー溶接

(467) フレアー溶接

(468) フレアー溶接

(469) フレアー溶接

(470) フレアー溶接

(471) フレアー溶接

(472) フレアー溶接

(473) フレアー溶接

(474) フレアー溶接

(475) フレアー溶接

(476) フレアー溶接

(477) フレアー溶接

(478) フレアー溶接

(479) フレアー溶接

(480) フレアー溶接

(481) フレアー溶接

(482) フレアー溶接

(483) フレアー溶接

(484) フレアー溶接

(485) フレアー溶接

(486) フレアー溶接

(487) フレアー溶接

(488) フレアー溶接

(489) フレアー溶接

(490) フレアー溶接

(491) フレアー溶接

(492) フレアー溶接

(493) フレアー溶接

(494) フレアー溶接

(495) フレアー溶接

(496) フレアー溶接

(497) フレアー溶接

(498) フレアー溶接

(499) フレアー溶接

(500) フレアー溶接

(501) フレアー溶接

(502) フレアー溶接

(503) フレアー溶接

(504) フレアー溶接

(505) フレアー溶接

(506) フレアー溶接

(507) フレアー溶接

(508) フレアー溶接

(509) フレアー溶接

(510) フレアー溶接

(511) フレアー溶接

(512) フレアー溶接

(513) フレアー溶接

(514) フレアー溶接

(515) フレアー溶接

(516) フレアー溶接

(517) フレアー溶接

(518) フレアー溶接

(519) フレアー溶接

(520) フレアー溶接

(521) フレアー溶接

(522) フレアー溶接

(523) フレアー溶接

(524) フレアー溶接

(525) フレアー溶接

(526) フレアー溶接

(527) フレアー溶接

(528) フレアー溶接

(529) フレアー溶接

(530) フレアー溶接

(531) フレアー溶接

(532) フレアー溶接

(533) フレアー溶接

(534) フレアー溶接

(535) フレアー溶接

(536) フレアー溶接

(537) フレアー溶接

(538) フレアー溶接

(539) フレアー溶接

(540) フレアー溶接

(541) フレアー溶接

(542) フレアー溶接

(543) フレアー溶接

(544) フレアー溶接

(545) フレアー溶接

(546) フレアー溶接

(547) フレアー溶接

(548) フレアー溶接

(549) フレアー溶接

(550) フレアー溶接

(551) フレアー溶接

(552) フレアー溶接

(553) フレアー溶接

(554) フレアー溶接

(555) フレアー溶接

(556) フレアー溶接

(557) フレアー溶接

(558) フレアー溶接

(559) フレアー溶接

(560) フレアー溶接

(561) フレアー溶接

(562) フレアー溶接

(563) フレアー溶接

(564) フレアー溶接

(565) フレアー溶接

(566) フレアー溶接

(567) フレアー溶接

(568) フレアー溶接

(569) フレアー溶接

(570) フレアー溶接

(571) フレアー溶接

(572) フレアー溶接

(573) フレアー溶接

(574) フレアー溶接

(575) フレアー溶接

(576) フレアー溶接

(577) フレアー溶接

(578) フレアー溶接

(579) フレアー溶接

(580) フレアー溶接

(581) フレアー溶接

(582) フレアー溶接

(583) フレアー溶接

(584) フレアー溶接

(585) フレアー溶接

(586) フレアー溶接

(587) フレアー溶接

(588) フレアー溶接

(589) フレアー溶接

(590) フレアー溶接

(591) フレアー溶接

(592) フレアー溶接

(593) フレアー溶接

(594) フレアー溶接

(595) フレアー溶接

(596) フレアー溶接

(597) フレアー溶接

(598) フレアー溶接

(599) フレアー溶接

(600) フレアー溶接

(601) フレアー溶接

(602) フレアー溶接

(603) フレアー溶接

(604) フレアー溶接

(605) フレアー溶接

(606) フレアー溶接

(607) フレアー溶接

(608) フレアー溶接

(609) フレアー溶接

(610) フレアー溶接

(611) フレアー溶接

(612) フレアー溶接

(613) フレアー溶接

(614) フレアー溶接

(615) フレアー溶接

(616) フレアー溶接

(617) フレアー溶接

(618) フレアー溶接

(619) フレアー溶接

(620) フレアー溶接

(621) フレアー溶接

(622) フレアー溶接

(623) フレアー溶接

(624) フレアー溶接

(625) フレアー溶接

(626) フレアー溶接

(627) フレアー溶接

(628) フレアー溶接

(629) フレアー溶接

(630) フレアー溶接

(631) フレアー溶接

(632) フレアー溶接

(633) フレアー溶接

(634) フレアー溶接

(635) フレアー溶接

(636) フレアー溶接

(637) フレアー溶接

(638) フレアー溶接

(639) フレアー溶接

(640) フレアー溶接

(641) フレアー溶接

(642) フレアー溶接

(643) フレアー溶接

(644) フレアー溶接

(645) フレアー溶接

(646) フレアー溶接

(647) フレアー溶接

(648) フレアー溶接

(649) フレアー溶接

(650) フレアー溶接

(651) フレアー溶接

(652) フレアー溶接

(653) フレアー溶接

(654) フレアー溶接

(655) フレアー溶接

(656) フレアー溶接

(657) フレアー溶接

(658) フレアー溶接

(659) フレアー溶接

(660) フレアー溶接

(661) フレアー溶接

(662) フレアー溶接

(663) フレアー溶接

(664) フレアー溶接

(665) フレアー溶接

(666) フレアー溶接

(667) フレアー溶接

(668) フレアー溶接

(669) フレアー溶接

(670) フレアー溶接

(671) フレアー溶接

(672) フレアー溶接

(673) フレアー溶接

(674) フレアー溶接

(675) フレアー溶接

(676) フレアー溶接

(677) フレアー溶接

(678) フレアー溶接

(679) フレアー溶接

(680) フレアー溶接

(681) フレアー溶接

(682) フレアー溶接

(683) フレアー溶接

(684) フレアー溶接

(685) フレアー溶接

(686) フレアー溶接

(687) フレアー溶接

(688) フレアー溶接

(689) フレアー溶接

(690) フレアー溶接

(691) フレアー溶接

(692) フレアー溶接

(693) フレアー溶接

(694) フレアー溶接

(695) フレアー溶接

(696) フレアー溶接

(697) フレアー溶接

(698) フレアー溶接

(699) フレアー溶接

(700) フレアー溶接

(701) フレアー溶接

(702) フレアー溶接

(703) フレアー溶接

(704) フレアー溶接

(705) フレアー溶接

(706) フレアー溶接

(707) フレアー溶接

(708) フレアー溶接

(709) フレアー溶接

(710) フレアー溶接

(711) フレアー溶接

(712) フレアー溶接

(713) フレアー溶接

(714) フレアー溶接

(715) フレアー溶接

(716) フレアー溶接

(717) フレアー溶接

(718) フレアー溶接

(719) フレアー溶接

(720) フレアー溶接

(721) フレアー溶接

(722) フレアー溶接

(723) フレアー溶接

(724) フレアー溶接

(725) フレアー溶接

(726) フレアー溶接

(727) フレアー溶接

(728) フレアー溶接

(729) フレアー溶接

(730) フレアー溶接

(731) フレアー溶接

(732) フレアー溶接

(733) フレアー溶接

(734) フレアー溶接

(735) フレアー溶接

(736) フレアー溶接

(737) フレアー溶接

(738) フレアー溶接

(739) フレアー溶接

(740) フレアー溶接

(741) フレアー溶接

(742) フレアー溶接

(743) フレアー溶接

(744) フレアー溶接

(745) フレアー溶接

(746) フレアー溶接

(747) フレアー溶接

(748) フレアー溶接

(749) フレアー溶接

(750) フレアー溶接

(751) フレアー溶接

(752) フレアー溶接

(753) フレアー溶接

(754) フレアー溶接

(755) フレアー溶接

(756) フレアー溶接

(757) フレアー溶接

(758) フレアー溶接

(759) フレアー溶接

(760) フレアー溶接

(761) フレアー溶接

(762) フレアー溶接

(763) フレアー溶接

(764) フレアー溶接

(765) フレアー溶接

(766) フレアー溶接

(767) フレアー溶接

(768) フレアー溶接

(769) フレアー溶接

(770) フレアー溶接

(771) フレアー溶接

(772) フレアー溶接

(773) フレアー溶接

(774) フレアー溶接

鉄骨構造標準図(2)

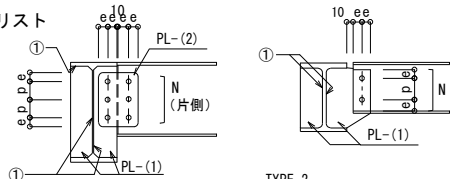
3. 継手規準図、その他

(1) 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ(P) ボルト穴径・最小縁端距離(mm)

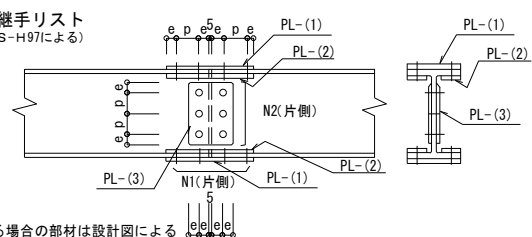
呼び径 (d)		ボルト 穴 径	最小 縁 端 距 離 (e)				ピッチ (P)	
			(1)	(2)	(3)	(2) (3) の標準	最小	標準
	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカ ボルト、 吊ボルト	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M34以上	呼び径+5		9d/5	4d/3			

(注) (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

(2) ピン接合梁継手リスト

[illegible]

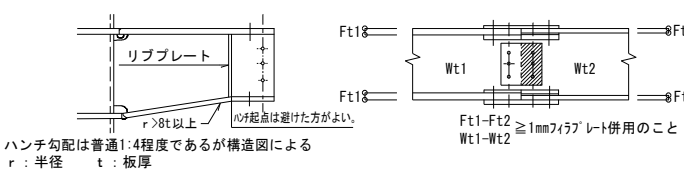
(3) 梁鋼接合継手リスト
(SCSS-H97による)



注) 端部をBHとする場合の部材は設計図による

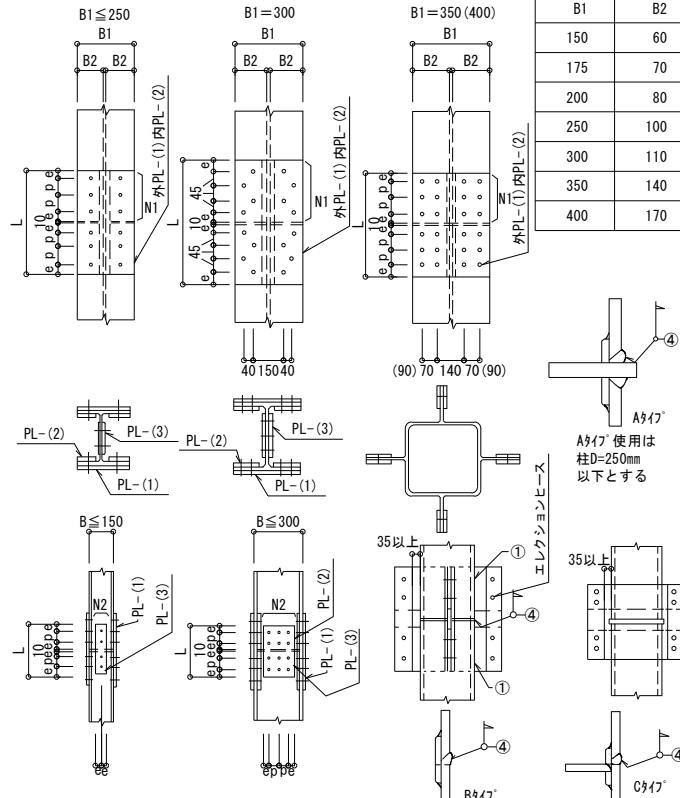
[illegible]

(4) ハンチ部の継手



構造詳細図該当項目

(5) 柱継手リスト (SCSS-H97による)



注) 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%を行う

[illegible]

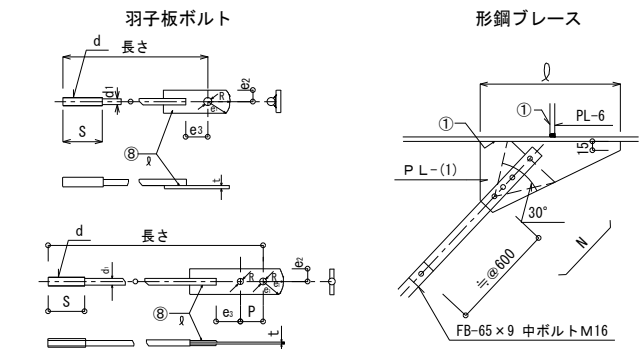
(6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする…JIS5540…1982/5541・5542…2003)
(a) 羽子板ボルト

ね じ の 呼 び (d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d1	最 大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最 小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調 整 ね じ の 長 さ S		100	115	125	140	150	165	175
取 付 ボ ル ト 穴 徑 許 容 差 +0. -0.5mm R		13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
は し あ き (最 小) (2) e1		35	40	45	50	50	55	50
切板製	へ り あ き (1) e2 (最 小)	22	28	28	34	34	38	38
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へ り あ き (1) e2 (最 小)	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボ ル ト 端 か ら 取 付 ボ ル ト 穴 心 の あ き (最 小) e3		47	52	59	66	66	73	70
溶 接 長 さ (最 小) l		40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種 類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) 又は						
		JIS B 1180 中8g 10.9						
	ね じ の 呼 び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本 数	1	1	1	1	1	1	2

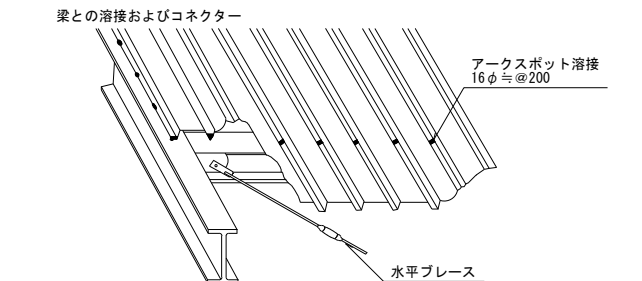
注 (1) e1、e2が確保されていれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする

(b) 形鋼ブレース

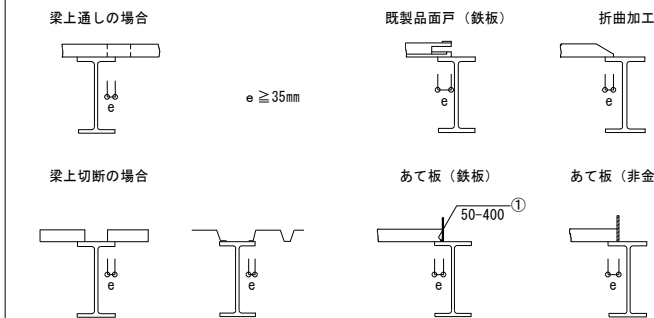
符 号	部 材	P L - (1)	N - 径	ℓ
鉄骨部材リストによる				



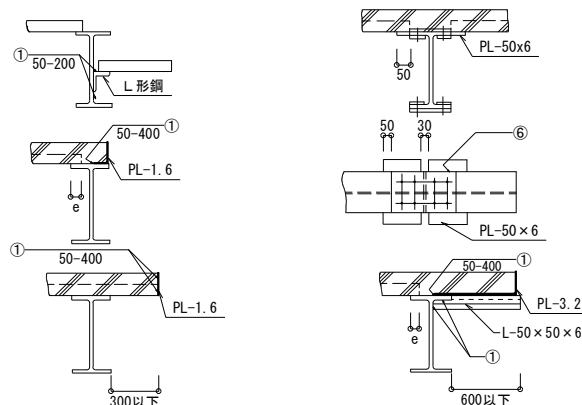
(7) デッキプレート（床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参考）



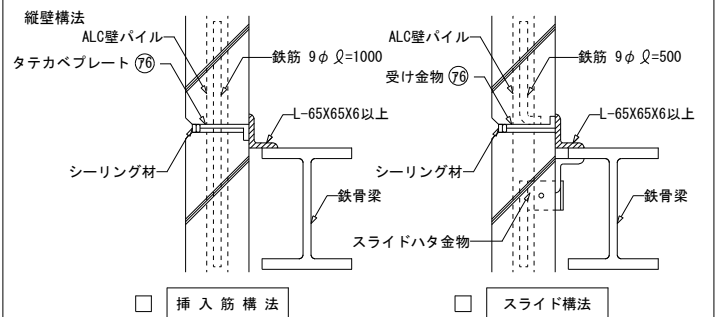
受梁へのかかり寸法および端部処理



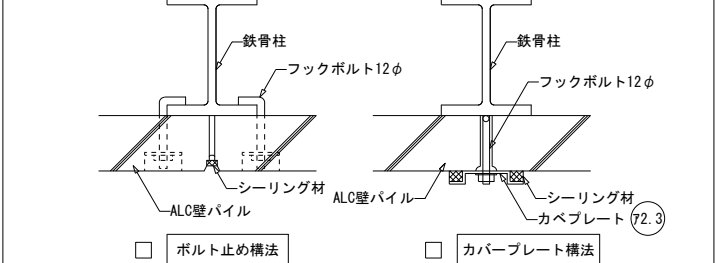
スラブ端部の補足材



(8) ALC板取付要領



横壁構法



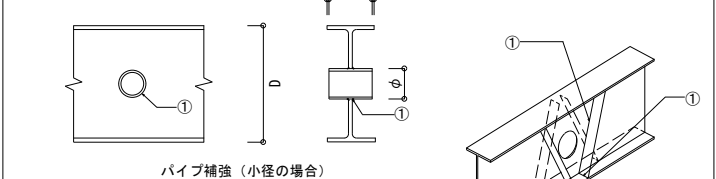
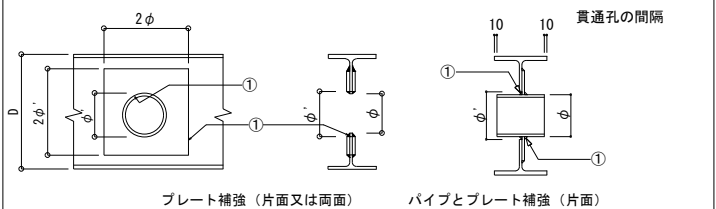
(9) 頭付きスタッド (JIS1198)

スタッド材の標準形状・寸法

形状 D	スタッド材				
	呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
	φ13mm	13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130
		12.7	25.4	7.9	
	φ16mm	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
		15.8	31.7	7.9	
	φ19mm	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
		19.0	31.7	9.5	
	φ22mm	22.0	35.0	10.0	100, 130, 150
		22.2	34.9	9.5	

(10) 梁貫通補強

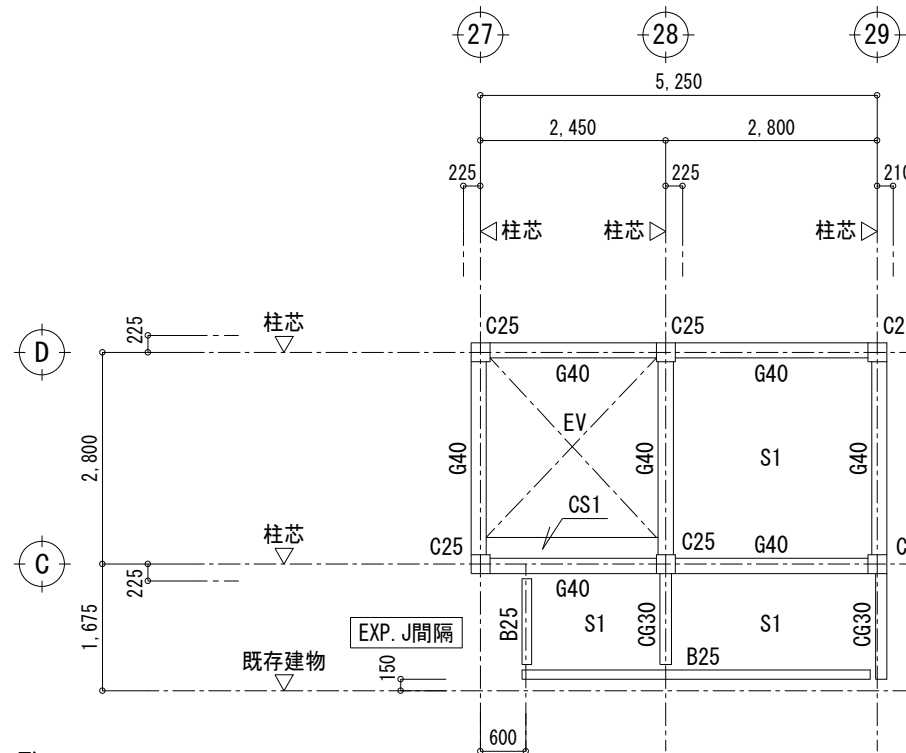
- ・計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
- ・梁端部（スパン $l/10$ 以内かつ $2D$ 以内）は避ける
- ・ $\phi \leq 0.4D$
- ・ ϕ^* は補強板の穴径を示す



プレート補強の板厚

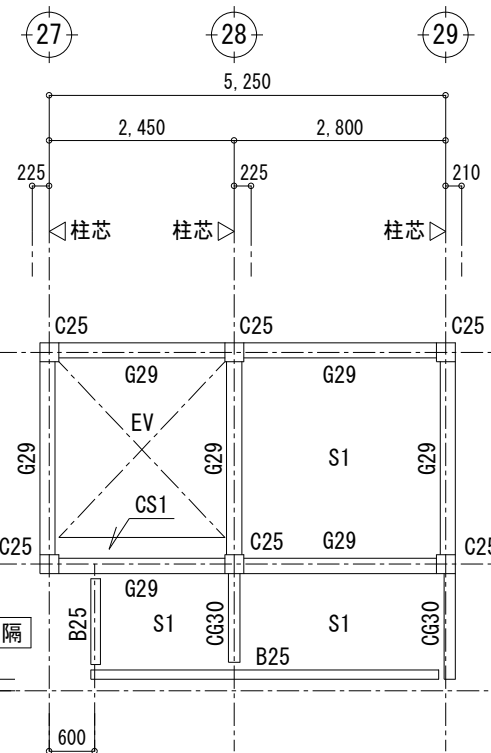
スリーブ径	補 強 板
$\phi \leq 0.15D$	補強板
$\phi \leq D/4$	Web板厚以上(片面)
$\phi \leq D/3$	Web板厚x1.2倍以上(片面)
$\phi \leq 0.4D$	Web板厚以上(両面)

既製品 (使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと)
□リング型



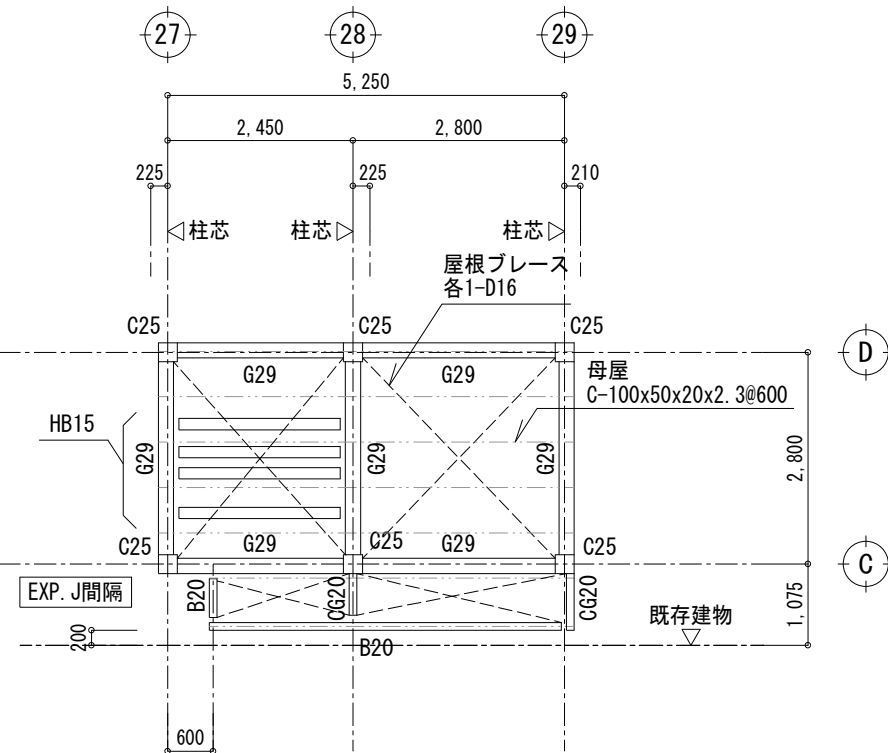
3階梁床伏図 1:100

(見上げ図)



4階梁床伏図 1:100

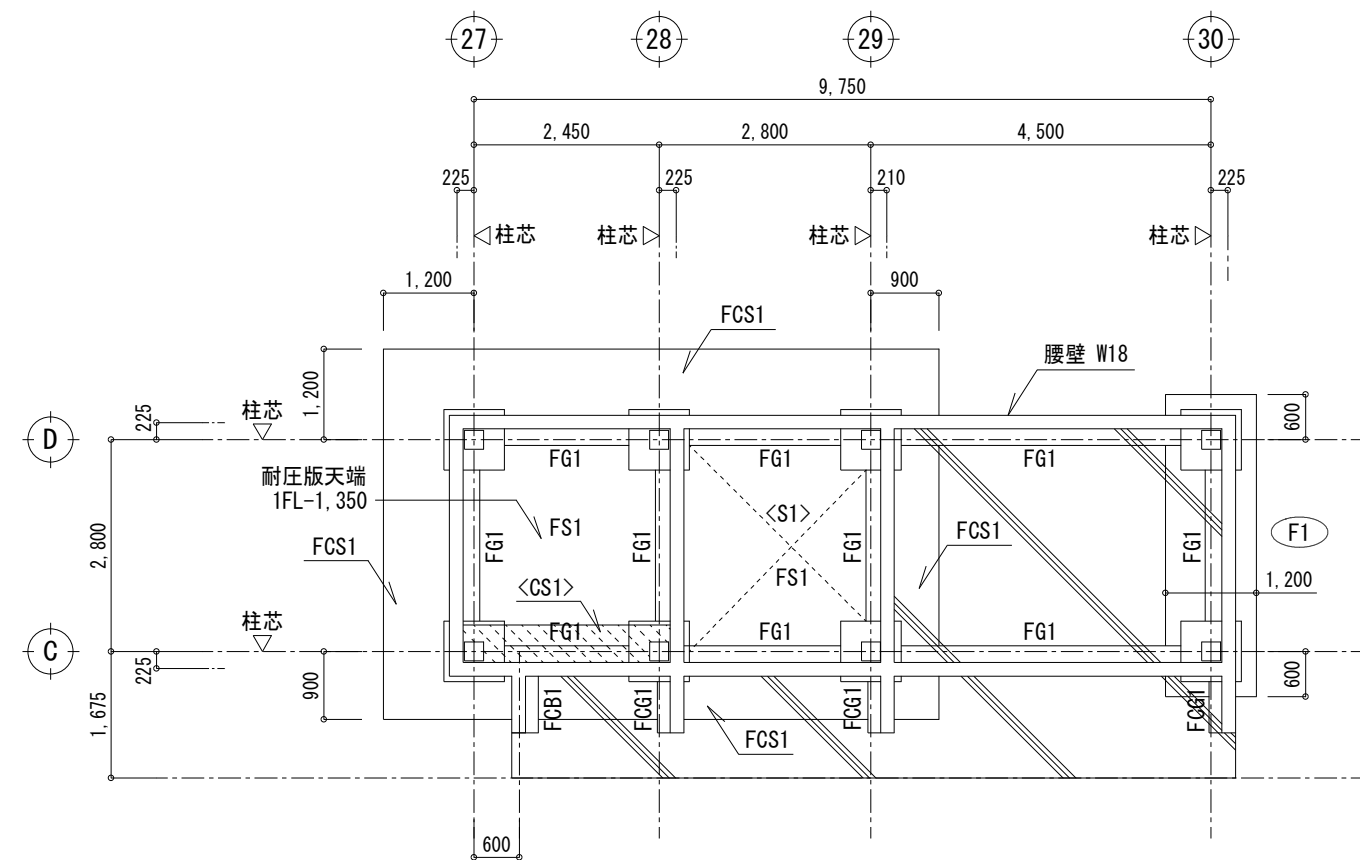
(見上げ図)



R階梁床伏図 1:100

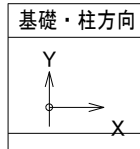
(見上げ図)

- (特記事項)
- ・小梁芯は意匠図参照の上施工図による
 - ・鉄骨継手位置は軸組図による
 - ・特記なき屋根ブレースは各1-M16とする



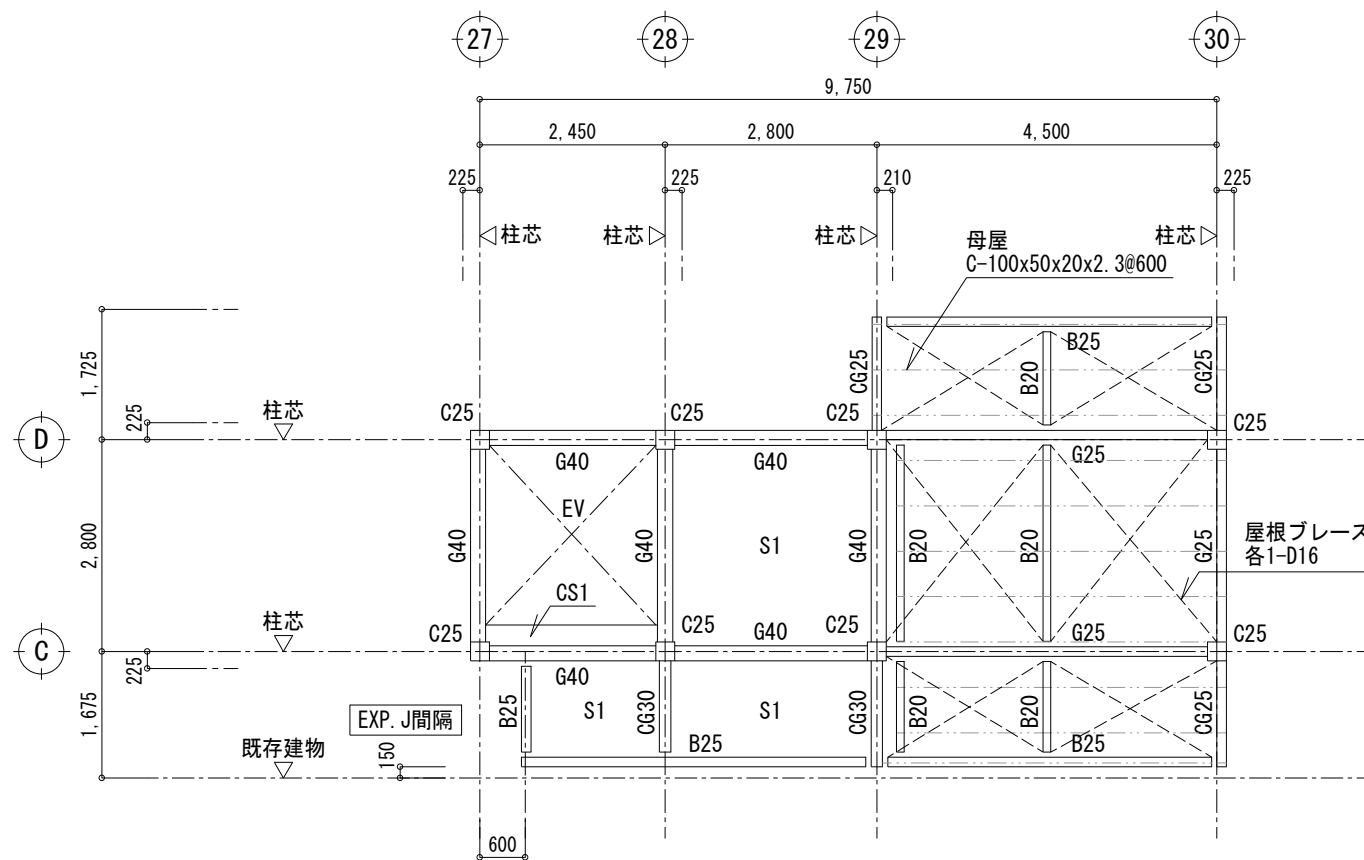
基礎伏図 1:100

(見下げ図)



- (特記事項) 特記なき限り下記とする
- ・柱符号はC25とする
 - ・腰壁はW18とし、壁厚180とする
 - ・基礎底は設計GL-2,000とする
 - ・地中梁天端は設計GL-1,000とする

- ・〈 〉内は1階スラブ符号を示す
 - ・印は 下部ビット部を示す
 - ・印は 土間コンクリート範囲を示す
- 詳細は意匠図参照の上施工図による



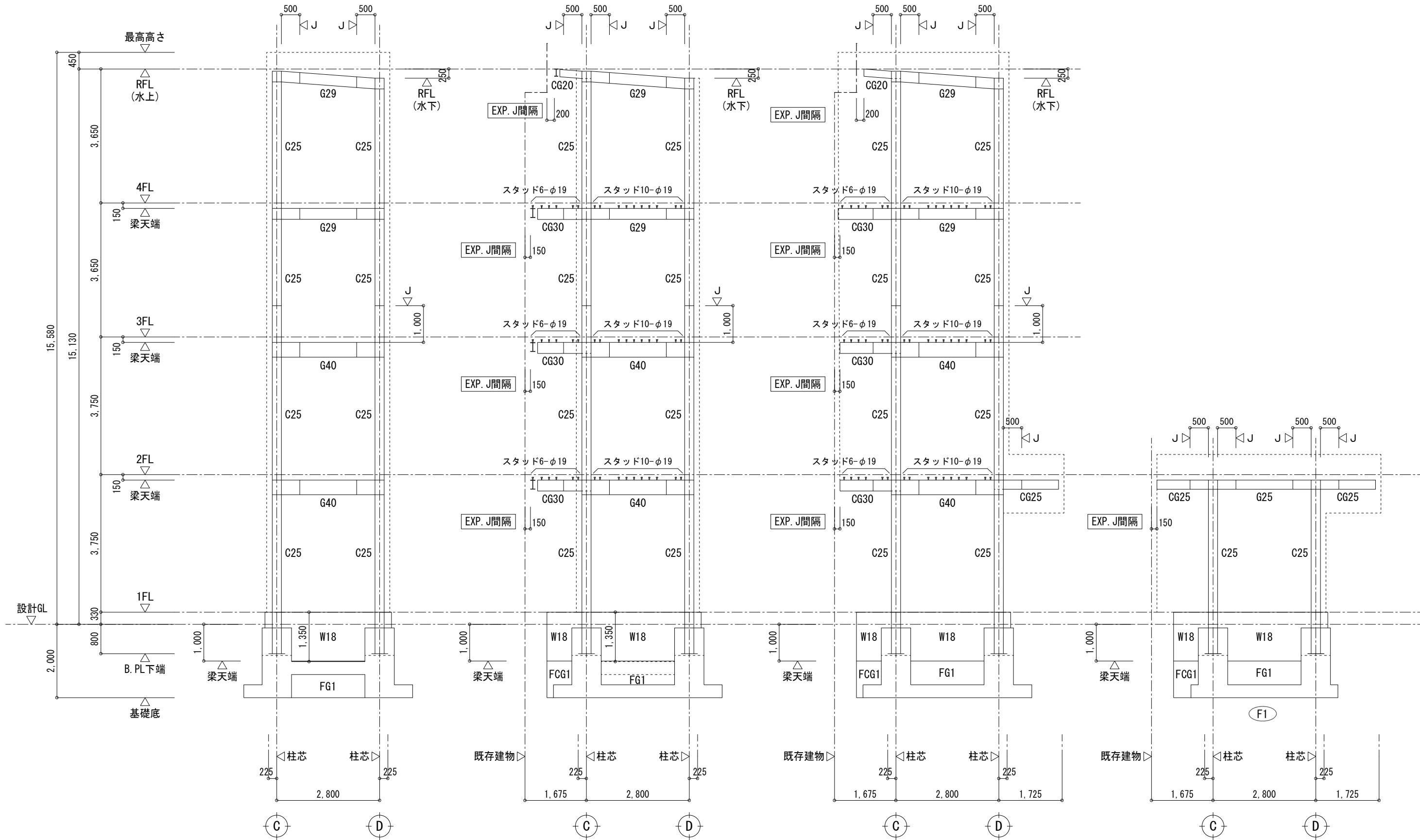
2階梁床伏図 1:100

(見上げ図)

一級建築士 第329649号 竹田 和彦
構造設計一級建築士 第9035号

株式会社 OKI Design
一級建築士 第 322987 号
沖園 周一郎 印

東谷山中学校校舎1号棟エレベーター設置その他本体工事
基礎伏図、各階伏図 A1:1/50
A3:1/100
鹿児島市建設局建築部建築課 S-O6



27通り軸組図 1:100

28通り軸組図 1:100

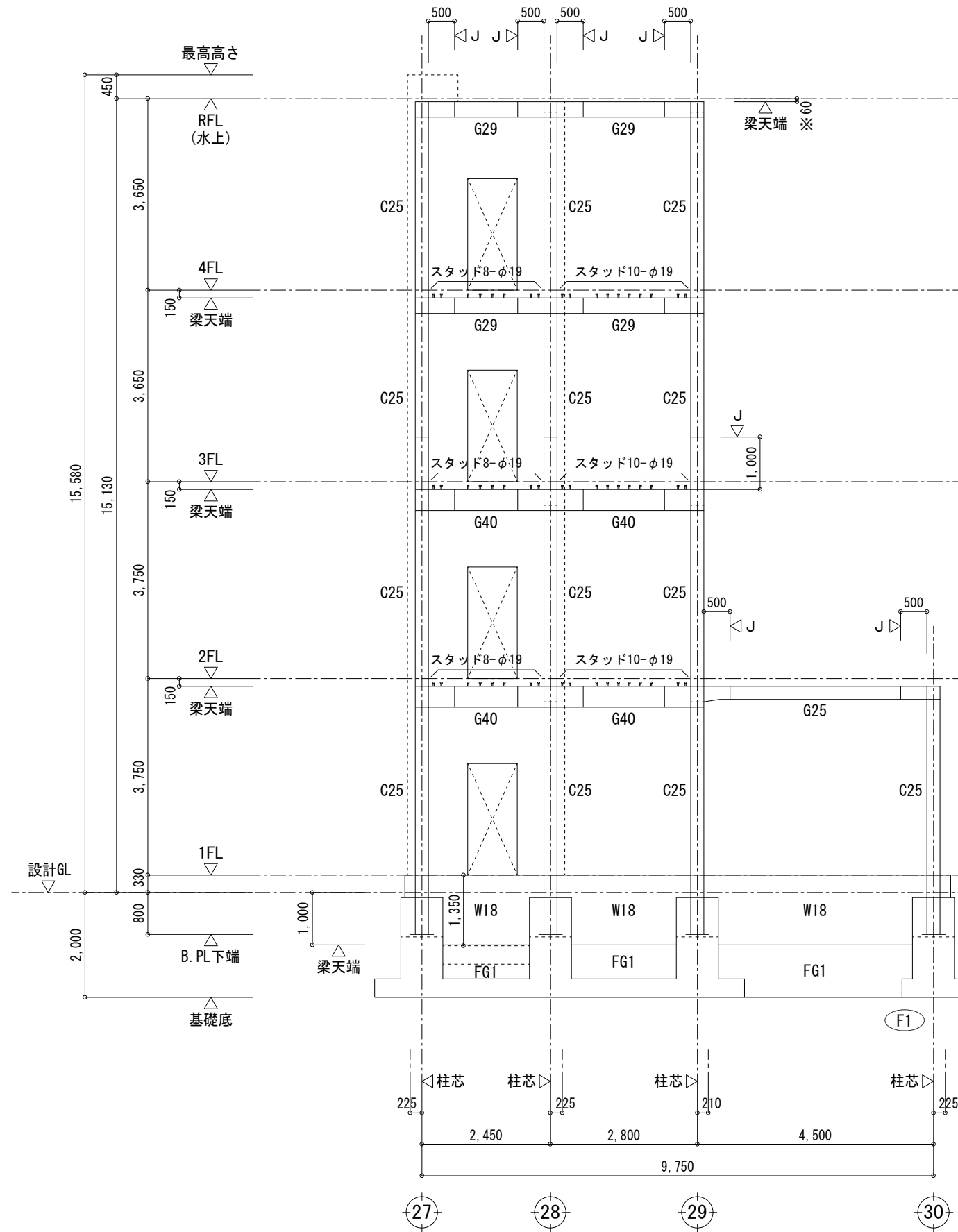
29通り軸組図 1:100

30通り軸組図 1:100

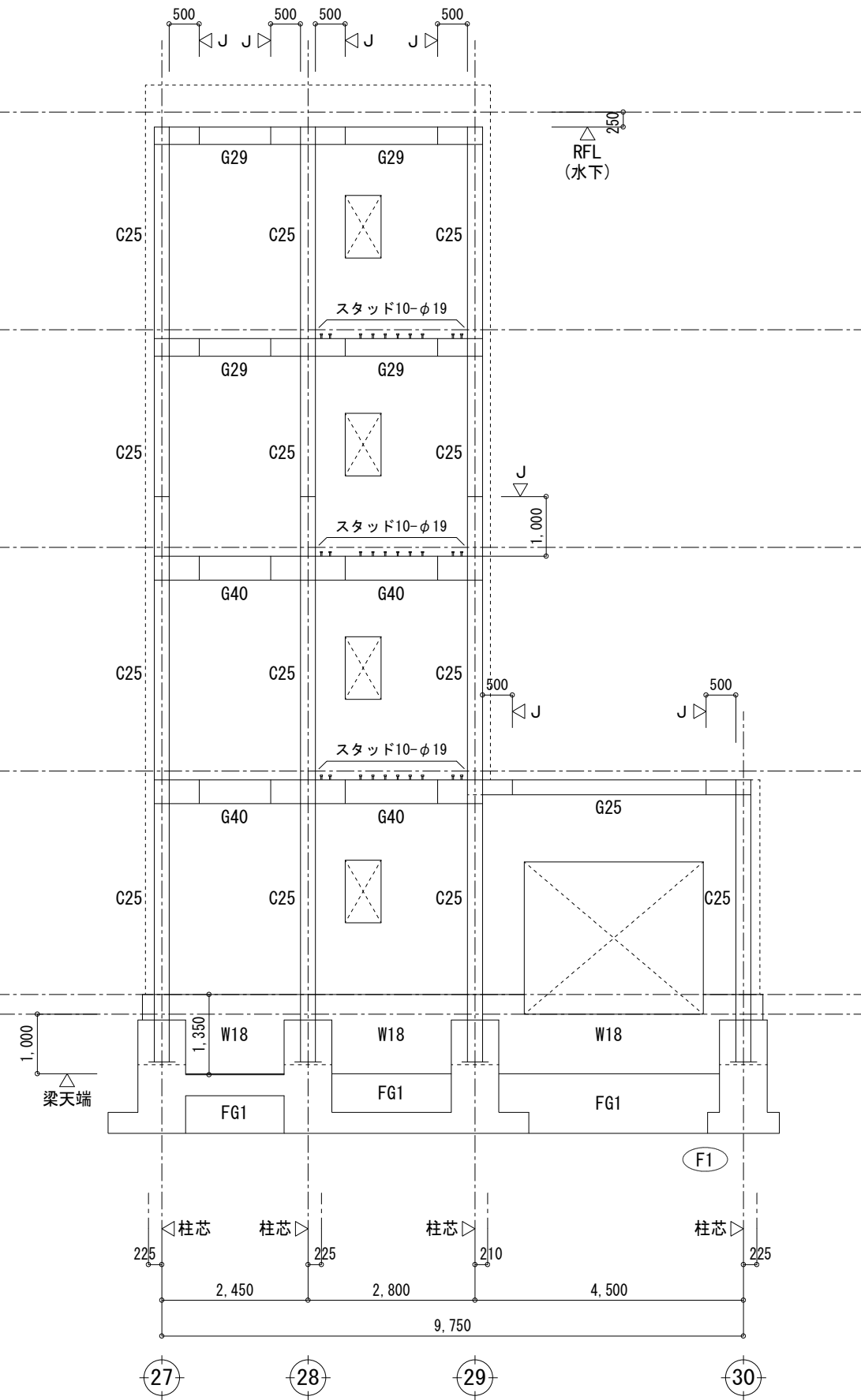
(特記事項)
・◁Jは継手位置を示す

一級建築士 第329649号 竹田 和彦
構造設計一級建築士 第9035号

株式会社 OKI Design 一級建築士 第 322987 号 沖園 周一郎 印	東谷山中学校校舎1号棟エレベーター設置その他本体工事		
	軸組図 (1)	A1:1/ 50 A3:1/100	S - 0 7
	鹿児島市建設局建築部建築課		



C通り軸組図 1:100



D通り軸組図 1:100

(特記事項)

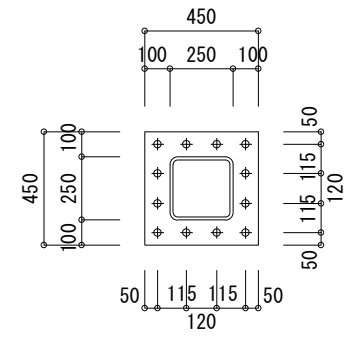
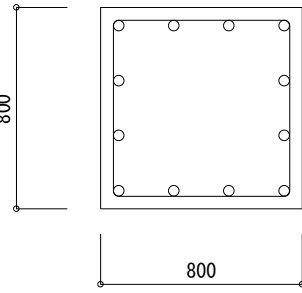
- ・△Jは継手位置を示す
- ・※印部寸法は意匠図参照の上施工図による

一級建築士 第329649号 竹田 和彦
構造設計一級建築士 第9035号

株式会社 OKI Design
一級建築士 第 322987 号
沖園 周一郎 印

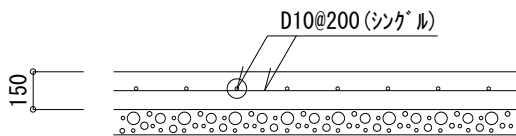
東谷山中学校校舎1号棟エレベーター設置その他本体工事		
軸組図（2）	A1:1/ 50 A3:1/100	S-08
鹿児島市建設局建築部建築課		

台柱，柱脚リスト 1:30

符 号	C 2 5
主 材	□ - 250 × 250 × 12
柱 脚	
B a s e P L	PL-19 × 450 × 450
A . B O L T	12-M22 (定着長 L=500)
	(二重ナット締め) 定着板(規格品70×70)
台 柱	
主 筋	12-D22
H O O P	D13@100

特記事項

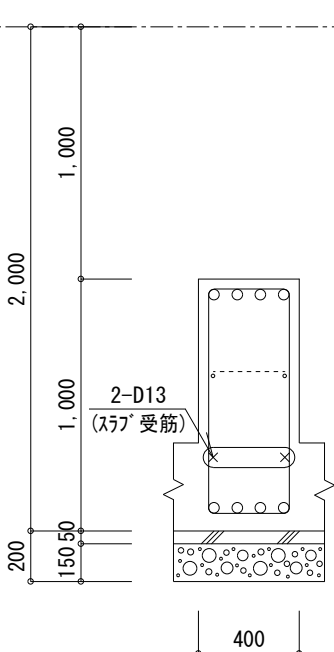
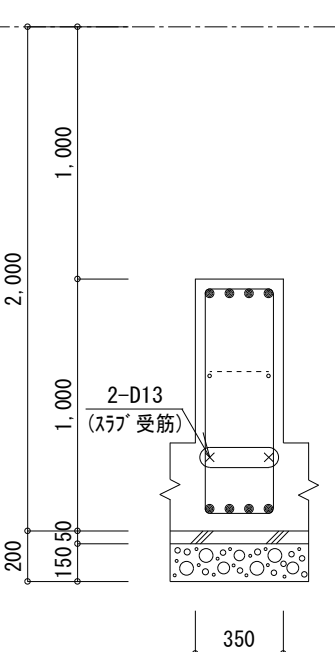
- ・特記無き限りベースプレートについては、SN490Cとする
- ・特記無き限りアンカーボルトについては、ABR490とする



土間コンクリート配筋図

地中梁リスト 1:30

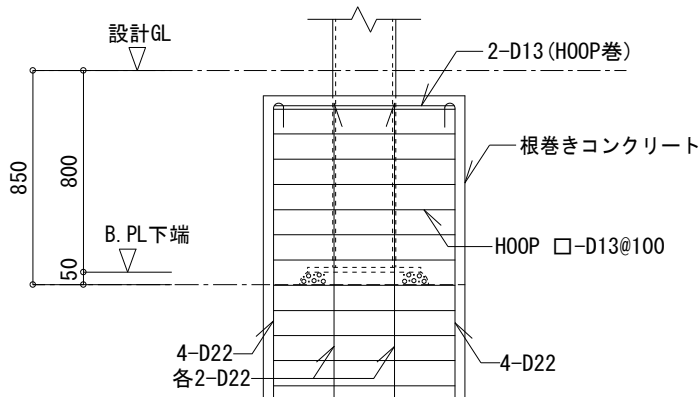
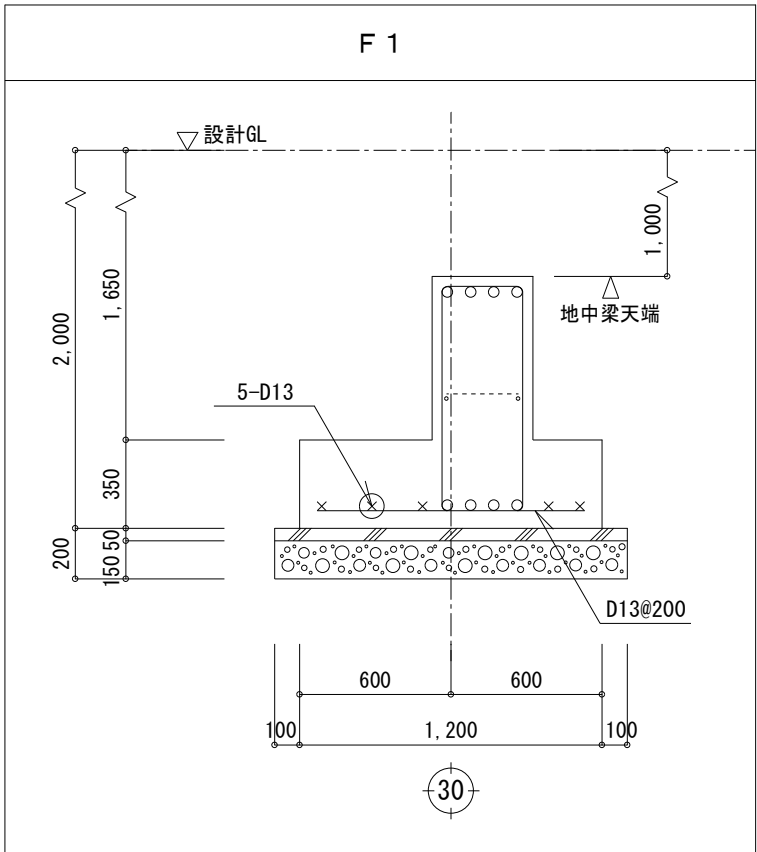
・巾止メ筋はD10@1000以下とする

符 号	FG 1	FGC 1, FCB 1
位 置	全断面	全断面
断 面		
B × D	400 x 1,000	350 x 1,000
上端筋	4-D22	4-D19
下端筋	4-D22	4-D19
S T P	□ -D13@200	□ -D10@200
腹 筋	2-D13+2-D10	2-D13+2-D10

スラブリスト

符号	版厚	位置	短辺方向	長辺方向	備 考
			全断面	全断面	
S1	150	上端筋	D10, 13@200	D10, 13@200	モチアミ配筋
		下端筋	D10@200	D10@200	
CS1	150	上端筋	D10, 13@200	D10@200	モチアミ配筋
		下端筋	D10@200	D10@200	
FS1	450	上端筋	D13@150	D13@150	モチアミ配筋
		下端筋	D13@150	D13@150	
FCS1	450	上端筋	D13@150	D13@150	モチアミ配筋
		下端筋	D13@150	D13@150	

基礎リスト 1:30



根巻きコンクリート配筋図 1:30

鉄骨部材リスト

・ボルトピッチ（P）、へりあき（e）（標準）（単位：mm）			
軸径 d	M 1 2	M 1 6	M 2 0
p	5 0	6 0	6 0
e	3 0	4 0	4 0
ボルト穴径	1 3 . 0	1 7 . 0	2 1 . 5

柱リスト

符 号	使 用 部 材	備 考
C 2 5	□－2 5 0×2 5 0×1 2	B C R 2 9 5

（特記事項）

- 1）ダイヤフラムプレートは 取付く梁のフランジと食違いないように厚くすること。
2）ダイヤフラムの材質は、S N 4 9 0 Cとする。

大梁リスト

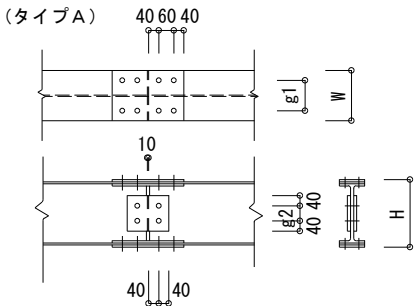
特記事項

1）使用鋼材 S S 4 0 0 H . T . B S 1 0 T

2）コンクリートスラブ（S 1）と鉄骨梁はスタッドボルトによる接合とする

符 号	H型鋼サイズ H×B×t1×t2	継 手							
		タイプ	フランジ			ウェブ		g1	g2
			添 板		H. T. B	添 板	H. T. B		
G 4 0	H-400×200×8×13	A	外	PL- 9×200×410	3×2-M20	2PL- 9×260×170	4×1-M20	120	60
			内	2PL- 9× 80×410					
G 2 9	H-294×200×8×12	A	外	PL- 9×200×410	3×2-M20	2PL-9×200×170	3×1-M20	120	60
			内	2PL- 9× 80×410					
CG 3 0	H-300×150×6. 5×9	A	外	PL- 9×150×290	2×2-M20	2PL-6×200×170	2×1-M20	90	120
			内	2PL- 9× 60×290					
G 2 5 CG 2 5	H-250×125×6×9	A	外	PL- 12×125×410	3×2-M16	2PL-6×170×290	2×2-M16	75	90
			内						

継 手 形 状



片持梁リスト

1）使用鋼材 S S 4 0 0 ※継手は大梁リスト参照とする

2）コンクリートスラブ（S 1）と鉄骨梁はスタッドボルトによる接合とする

符 号	H型鋼サイズ H×B×t1×t2	備 考
C G 3 0	H－3 0 0×1 5 0×6 . 5×9	工場溶接
C G 2 5	H－2 5 0×1 2 5×6×9	工場溶接
C G 2 0	H－2 0 0×1 0 0×5 . 5×8	工場溶接

その他部材リスト

特記事項

1）特記無き限り材種はS S 4 0 0とする。

符 号	使 用 部 材	備 考
母屋	C－1 0 0×5 0×2 0×2 . 3@6 0 0 （S S C 4 0 0）	ピースPL－4 . 5 中ボルト 2－M1 2
屋根ブレース	1－M1 6（ターンバックル付）	G . PL－9 H . T . B 1－M1 6
H B 1 5	H－1 5 0×1 5 0×7×1 0	G . PL－9 H . T . B 2－M1 6

小梁リスト

特記事項

1）使用鋼材 S S 4 0 0 H . T . B S 1 0 T

2）コンクリートスラブ（S 1）と鉄骨梁はスタッドボルトによる接合とする

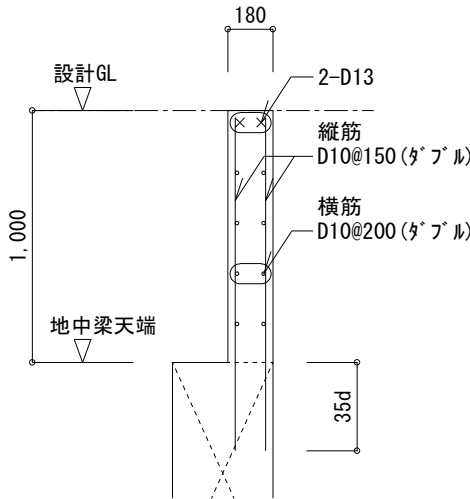
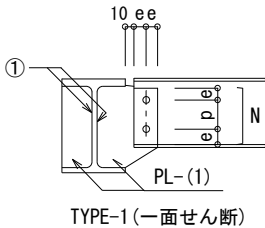
符 号	タイプ	使用部材	P L－（1）	N－径
B 2 0	TYPE-1	H－2 0 0×1 0 0×5 . 5×8	P L－6	2－M1 6
B 2 5	TYPE-1	H－2 5 0×1 2 5×6×9	P L－6	3－M1 6

スタッドボルト

スタッドボルトは大梁、小梁とも配置すること

使 用 部 材	備 考
φ 1 9 h=8 0 @ 2 0 0（シングル）	フランジ幅 2 0 0以下の梁上

小梁継手形状



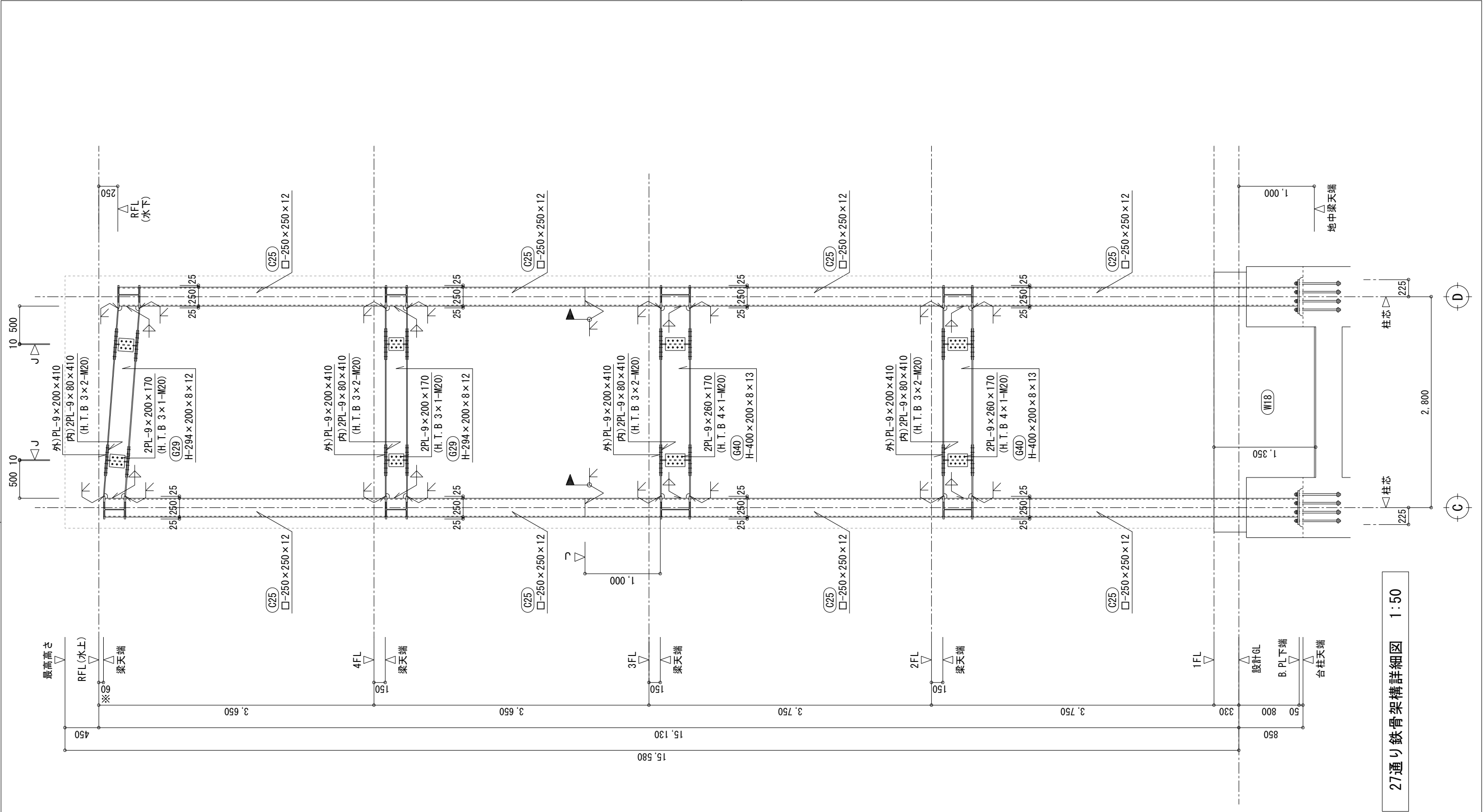
腰壁配筋要領図 1:30

腰壁の高さについては、意匠図参照の上施工図による

一級建築士 第329649号 竹田 和彦
構造設計一級建築士 第9035号

株式会社 OKI Design
一級建築士 第 322987 号
沖園 周一郎 印

東谷山中学校校舎1号棟エレベーター設置その他本体工事		
鉄骨部材リスト	A1:1/ 15 A3:1/ 30	S－1 0
鹿児島市建設局建築部建築課		



27通り鉄骨架構詳細図 1:50

(特記事項)
ダイヤフラムプレートは 食違いないように取付く梁のフランジを厚くすること。
梁フランジより 通しダイヤフラム：2サイズ以上アップのこと（取り付く梁の段差も考慮のこと）
内ダイヤフラム：同厚以上のこと（取り付く梁の段差も考慮のこと）
ダイヤフラムについては、SN490Cとする。
継手位置については運搬等を考慮の上、現場にて打ち合わせの上最終決定とする。
※印寸法は意匠図参照の上施工図による。